

What I want to do.

後発 1班 所沢北高校 2年

「あなたは何について学びたいのか。」「あなたがしたいことは何か。」この二つは、トリップリーダーの二人が皆に言った言葉です。つまり、「比較するのは他人とではなく、以前の自分だ。」ということです。今回の研修で私はこれらを常に自分に問い続けました。

進路について漠然と職業しか考えていなかった私にとって、この研修での経験は糧であり刺激でした。参加メンバーは学ぶことに積極的で、休み時間やフライト中、移動時間でさえ勉強している人もいたほどです。もちろん英語のスキルが高い人も沢山いて、研修を重ねるたびに自分の英語力に不安と焦りを感じ、そして挫折を味わいました。渡米前は常に他の人と自分を比較して勝手に落ち込む日々が続きました。事前研修の成果を出す場であるプレゼンテーションで私は日本と海外の教育について話しました。メンターにアドバイスをもらいながら自分でも工夫をして、無事成功しました。いろいろな人から褒めてもらい、ここでやっと自信がつかしました。

ニューヨークとボストンでは、報告集に書ききれないほどのたくさんのアクティビティをしました。その中で、私が印象に残ったのは、ハーバード大学でのワークショップです。いくつか講義があった中で、特に「リベラルアーツ」についての講義にとっても感動しました。

リベラルアーツとは日本語で一般教養と訳します。詳しく言うと、社会をよりよくする人材を育てるための基礎的な知識や学びのことです。ハーバード大学では生徒は必ずこの授業を受けます。そして各個人が「学びたいもの」を選択していきます。私はこの講義を受けてある事に気が付きました。ハーバード生と日本の多くの学生では、進路に対するプロセスが違うということです。

日本では学生はまず「何になりたいか」について考えます。そして、その職業になるためにはどこの大学、学部に行くべきなのかを考えます。これに対してハーバード生はまず「何を学びたいのか」を考えます。そして「自分が学んだものを一番生かせる場所はどこなのか」と続いていくのです。

このプロセスには本当に驚きました。始めに書いた「あなたは何について学びたいのか。」これを最大に尊重してくれるのがリベラルアーツだと私は思いました。

こうした教育現場や考え方に会えることができ、私は教育について深く学びたいのだと気が付くことができました。主要教科だけでなく芸術や教養を大切にするというリベラルアーツの考え方を教えてくれたハーバード大学とメンターに本当に感謝しています。このような素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。今回の研修で学んだことは必ず自分のこれからの将来に生かしていきます。そしていつか、以前の私のように漠然と過ごしている学生にこの研修のような素晴らしい機会を与えてあげられる人になりたいです。